

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 23年 1月
(第1 ~ 4週)

発行年月日：平成23年(2011年) 2月21日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 ^{*1}		
		1月		1～12月				1月		1～12月		
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		ニパウイルス感染症	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	0	0	133	
	南米出血熱	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	4	
	ペスト	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	2		ブルセラ症	0	0	0	2	
	結核	25	1,465	252	26,078		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	2	0	0	
三類	コレラ	0	0	0	11		マラリア	0	2	0	75	
	細菌性赤痢	0	6	2	232		野兔病	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	57	66	4,110		ライム病	0	0	0	12	
	腸チフス	0	0	0	30		リッサウイルス感染症	0	0	0	0	
	パラチフス	0	3	1	21		リフトバレー熱	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	0	3	0	66	類鼻疽	0	0	0	4		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	レジオネラ症	3	44	10	726		
	A型肝炎	0	31	3	342	レプトスピラ症	0	1	0	22		
	エキノコックス症	0	2	0	12	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0		
	黄熱	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	1	58	7	831	
	オウム病	0	0	1	11		ウイルス性肝炎	1	21	3	220	
	オムスク出血熱	0	0	0	0		急性脳炎	0	28	1	234	
	回歸熱	0	0	0	1		クリプトスポリジウム症	0	1	0	16	
	キャサヌル森林病	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	5	2	167	
	Q熱	0	0	0	2		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	18	3	124	
	狂犬病	0	0	0	0		後天性免疫不全症候群	1	84	1	1,513	
	コクシジオイデス症	0	1	0	1		ジアルジア症	0	3	1	79	
	サル痘	0	0	0	0		髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	7	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0		梅毒	0	46	8	610	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0		破傷風	1	3	0	104	
	炭疽	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	
	チクングニヤ熱 ^(*)	-	-	-	-		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	5	2	119	
	つつが虫病	0	27	2	396		風しん	0	7	5	89	
	デング熱	0	9	2	243		麻疹	0	28	1	457	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0		(*) : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - : 未集計					
	*1 感染症発生動向調査暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年第52週現在)											

(*)：感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-：未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (1月)

< 結核 > 25名

性別：男性 15名、女性 10名
類型：患者 22名

無症状病原体保有者 3名

病型：肺結核 15名

その他の結核 7名

無症状病原体保有者 3名

< レジオネラ症 >

男性 63歳、97歳 女性 97歳

推定感染経路は3名とも不明で、推定

感染地域は、全員日本国内です。病型は

肺炎型2名および無症状病原体保有者1

名です。

< アメーバ赤痢 > 男性 44歳

推定感染経路は不明で、推定感染地

域は日本国内です。病型は腸管アメー

バ症です。

< ウイルス性肝炎 > 男性 49歳

推定感染経路は異性間性的接触で、

推定感染地域は日本国内です。病型は

B型です。

< クロイツフェルト・ヤコブ病 >

男性 60歳

推定感染経路および推定感染地域と

もに不明です。

< 後天性免疫不全症候群 >

男性 23歳

推定感染経路は不明で、推定感染地

域は日本国内です。病型はAIDSです。

< 破傷風 > 女性 43歳

推定感染経路は創傷感染で、推定感

染地域は日本国内です。

*1 感染症発生動向調査暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年第52週現在)

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

1月の概要

<インフルエンザ>

第1～3週(1/3～1/23)の定点当たり患者数は急増し、毎週、前週のほぼ倍増となっていました。第4週(1/24～1/30)には、定点当たり患者数が、27.79となりました。さらに、第3週にはインフルエンザ注意報が、第4週にはインフルエンザ警報が県内全域に発令されました。また、インフルエンザウイルスについては、第3週にB型インフルエンザウイルスが、今シーズンになって初めて、県内で検出されました。

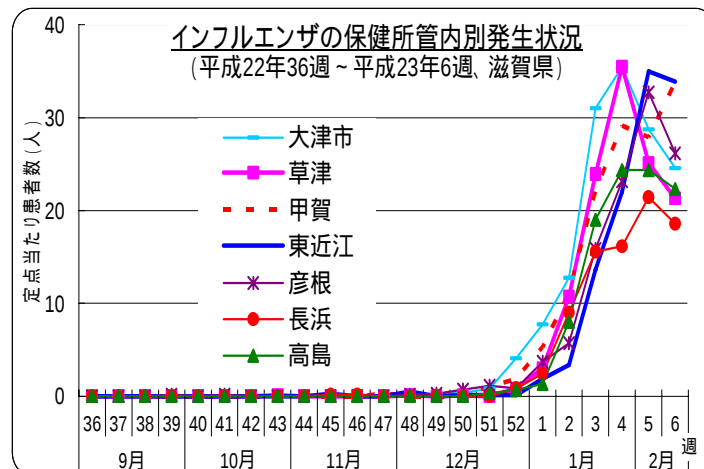
<小児科定点疾患>

伝染性紅斑(リンゴ病)およびヘルパンギーナでは、先月より増加し、他の疾患では減少していました。特に、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎および手足口病で大幅に減少していました。感染性胃腸炎は、平成22年第51週(12/20～12/26)に、県内全域に警報が発令されましたが、第2週(1/10～1/16)には解除されました。また、伝染性紅斑では、甲賀保健所管内で多くっており、第1～4週の全期間で警報発生基準値(警報終息基準値: 定点当たり患者数 1.00)を超えていました。長浜保健所管内においても、第2週および第4週の定点当たり患者数は警報発生基準値(警報開始基準値: 定点当たり患者数 2.00)を超えていました。水痘では、草津保健所管内で第1週に、甲賀保健所管内で、第1週、第2週および第3週に注意報発生基準値(定点当たり患者数 4.00)を超えていました。(他の疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

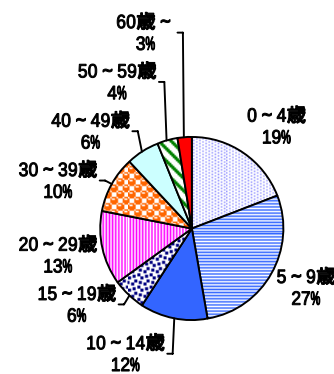
<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より半減し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、無菌性髄膜炎は増加し、マイコプラズマ肺炎は大幅に減少していました。細菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

インフルエンザの発生状況(2010/2011年シーズン)



年齢群別発生割合(平成22年第36週～平成23年第6週)



<各定点の対象疾患>

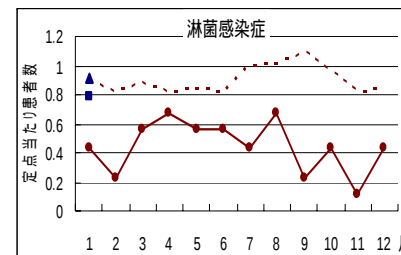
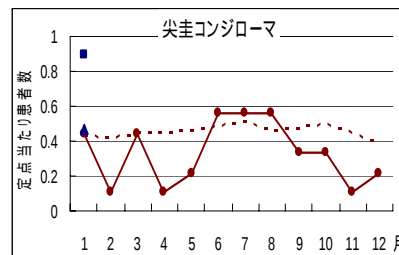
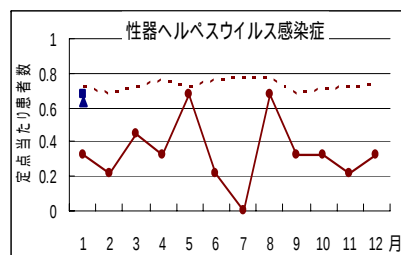
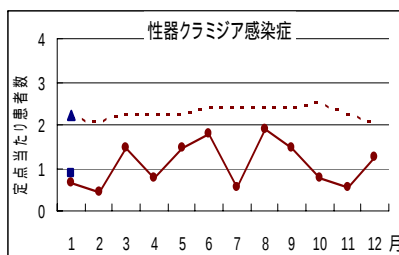
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

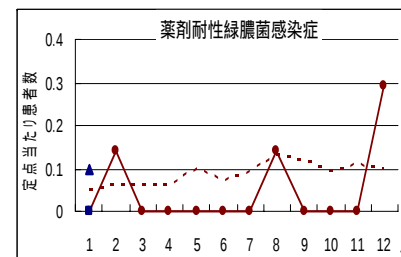
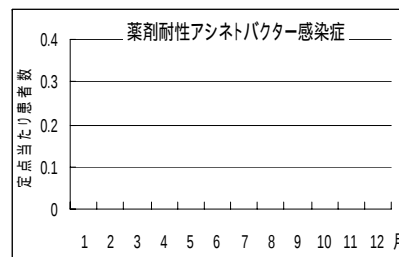
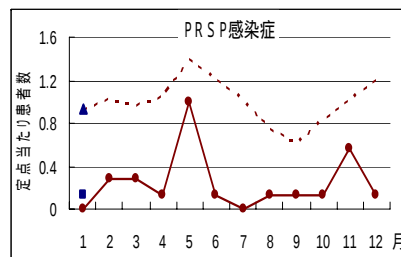
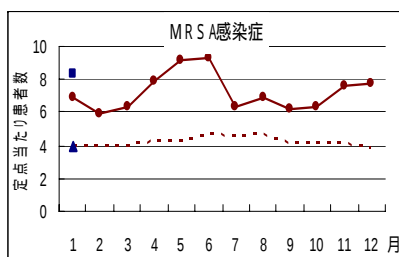
3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 23 年 1 月)

疾 患 名	区 分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合 計
性器クラミジア感染症	報告数	8												8
	定点当たり患者数	0.89												0.89
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6												6
	定点当たり患者数	0.67												0.67
尖圭コンジローマ	報告数	8												8
	定点当たり患者数	0.89												0.89
淋菌感染症	報告数	7												7
	定点当たり患者数	0.78												0.78
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58												58
	定点当たり患者数	8.29												8.29
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1												1
	定点当たり患者数	0.14												0.14
薬剤耐性 アシネトバクター感染症 ^(*)	報告数	-												-
	定点当たり患者数	-												-
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0												0
	定点当たり患者数	0												0

* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。



H22 滋賀
● 全国
.....



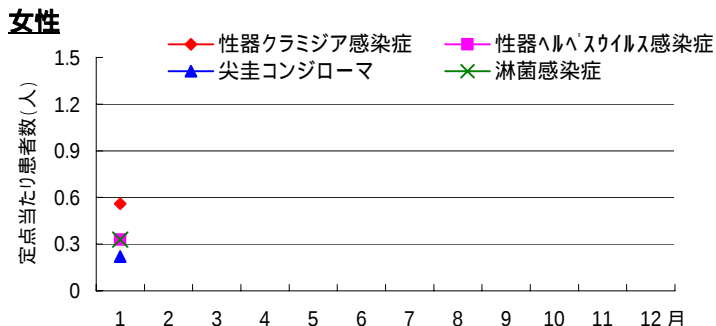
H23 滋賀
■ 全国
.....

* 平成23年1月のデータは、全国 ▲、滋賀県 ■ として表示しています。

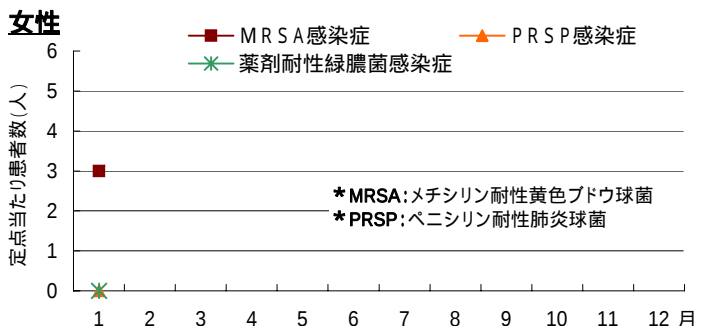
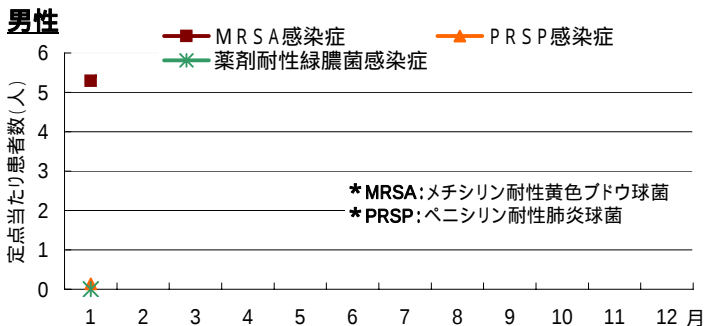
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

先月(平成22年12月)と比較すると、性器クラミジア感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症は減少し、PRSP感染症(ペニシリン耐性肺炎球菌感染症)は、横ばいです。その他の感染症では増加し、特に尖圭コンジローマでは、4倍増となっています。

性感染症定点における疾患別発生状況



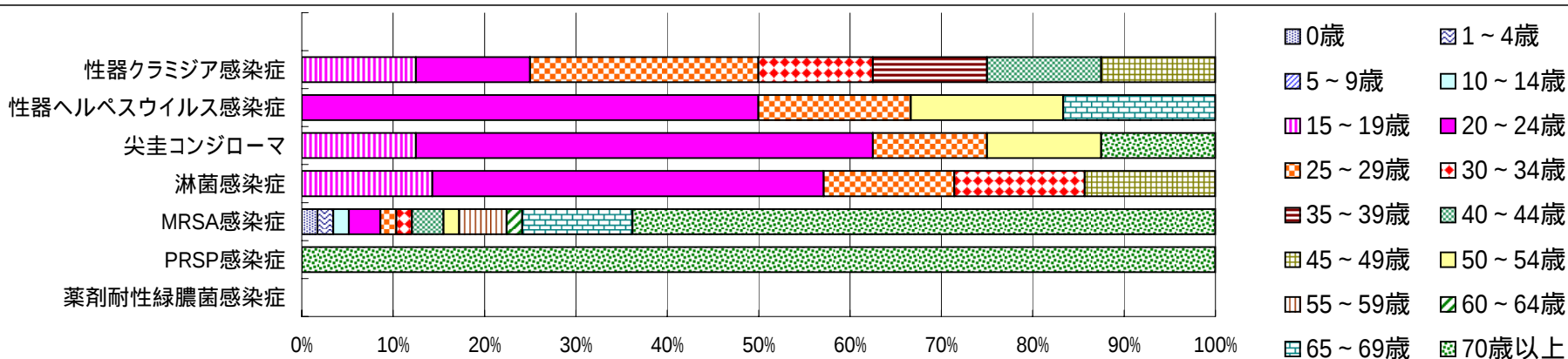
基幹定点における疾患別発生状況



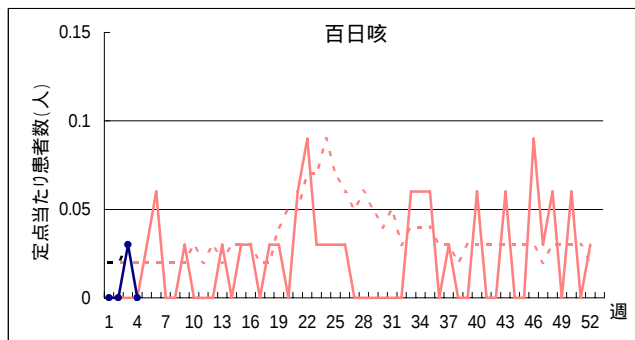
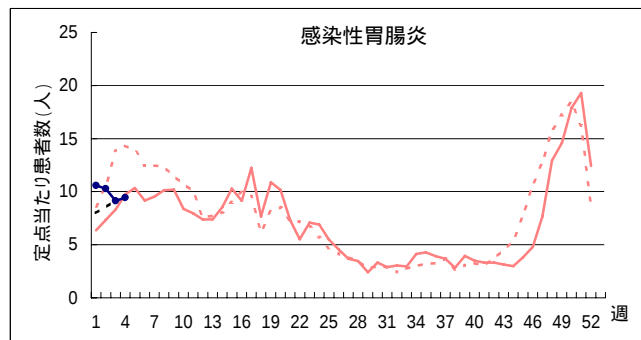
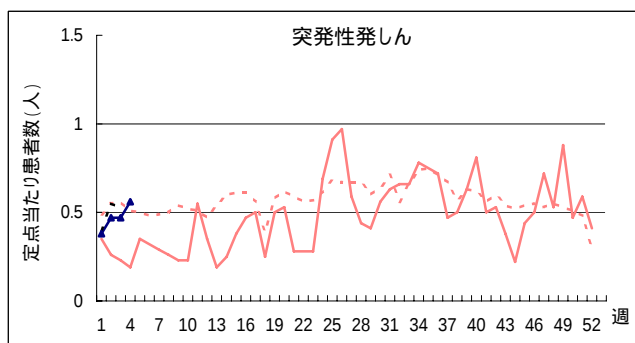
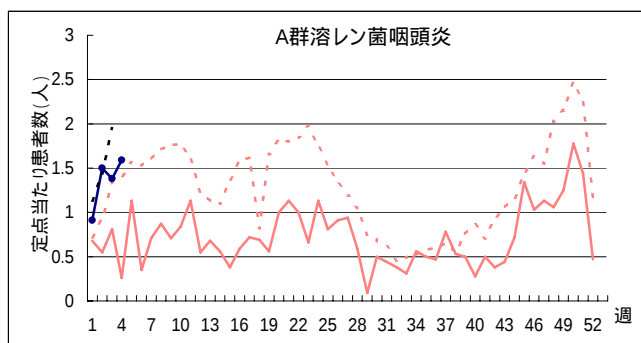
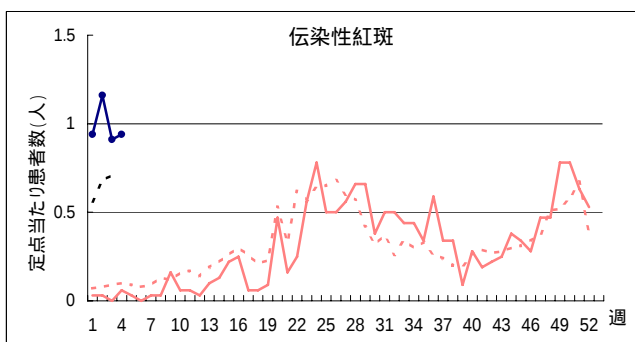
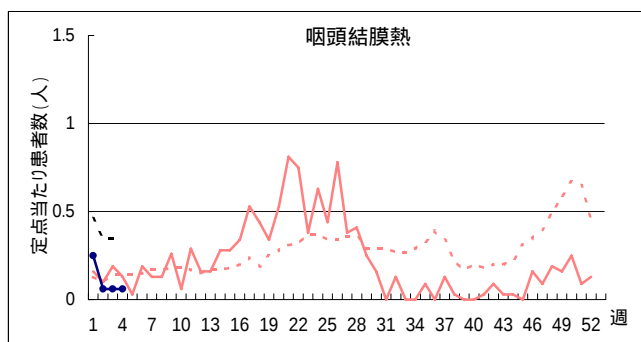
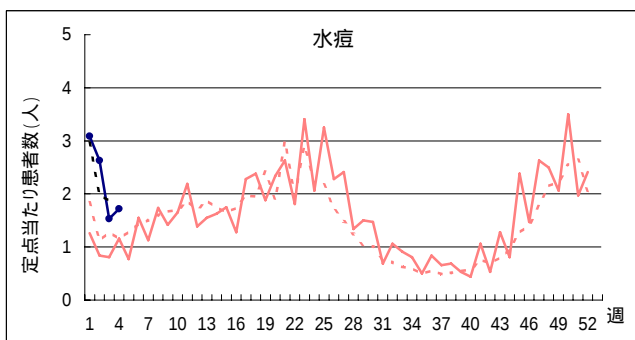
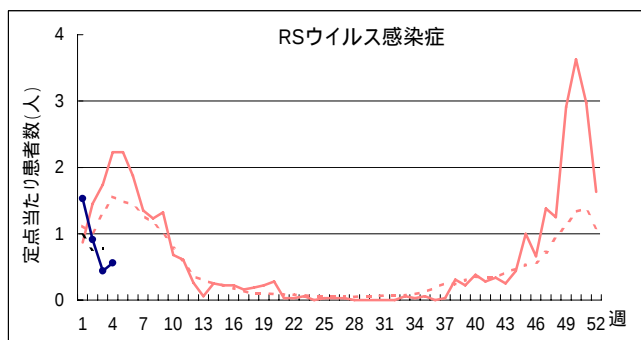
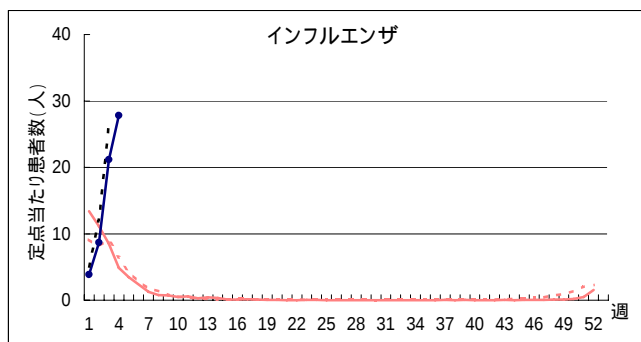
性感染症定点および基
幹定点における各疾患の
月別・性別発生状況は、
左記グラフに示すとおり
です。性器クラミジア感
染症は女性で多く、男性
の約2倍となっています。
尖圭コンジローマは男性
で多く、女性の約3倍とな
っています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりです。性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマおよび淋菌感染症では、15～19歳からの報告があり、すべて女性からの報告でした。

疾患別・年齢別発生状況 (H23.1)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～4週、H23.1.3～H23.1.30)



疾病別定点当たり患者数(平成23年第 1～4 週、H23.1.3～H23.1.30)

